



今では誰かが欠席するととても心配したり、また出で立つ時も必ず「お出で下さい」とお声をかける人には少し注意したりと、まるで母親のよう存在感を發揮されるようになりました。最後に次のよ

すずらん

Vol. 9

フェスタすずらん

2001



11月10（土）に、フェスタすずらんが行われました。
当日はあいにくの雨にもかかわらず、地域の方々を含め
多くの方にご参加いただきました。
イベント会場も急遽、屋内という事で、心配されましたが、
想像以上の盛り上がりで、一日楽しく交流が行われました。

八代市立
中学校

のぞいてみました フレンド会議の会

9月29日にワークショップフレンド(以下フレンド)、10月5日にグリーンハウス、16日にワークショップフレンド分場(以下フレンド分場)で、利用者の会が行われました。

そこでは、次のようなことが要望としてあげられました。

<フレンド>

- ・午前中に休憩を入れてほしい。
- ・学習ボランティアをやってほしい。
- ・仕事中、悩みを聞いてほしい。

- ・利用者同士のけんかをやめてほしい。

<フレンド分場>

- ・作業台が汚れているので、作業台を変えてほしい。
- ・お弁当のカロリーを少なくしてほしい。
- ・給料を上げてほしい。皆勤手当てがほしい。

- ・仕事のあと、お茶会をしてほしい。

<グリーンハウス>

- ・トイレの床が濡れていたり、泥がついていたりすることが目立つことから、「トイレの利用について」

1時間半～2時間という時間で、要望や議題についてそれぞれの意見がだされました。

フレンドでは、話し合いが進むにつれ、日常的に職場内で職員に感じている個人的感情(職員が言いたい放題言う等)もでてきて、一なんでも言える利用者の会としての機能が充分に感じられました。

フレンド分場では、「給料を上げてほしい。」という要望に対し、園長から給料の意味、また、分配の方法、そしてその価値についてのお話がありました。それに対し、利用者からは、「どうすれば仕事の数をこなせるか」といった意欲あふれる意見も出され、分場らしい利用者の会を感じられました。

今後とも、我々職員が利用者の要望や気持ちに充分応えていくよう、また、自分達で解決することを経験していくような利用者の会の成長を見守りたいと思います。

最後に各利用者の会会長から感想を聞きました。

フレンド 副会長：出口さん

初めは緊張したけど、自分の意見が言えた。話し合いを進める中で、少し話しやすい雰囲気になってきた。これから、もっとたくさん意見を言いたい。

フレンド分場 会長：永山さん 他

(休憩時に読む本がほしいという) 要望がかなって良かったです。

グリーンハウス 会長：入沢さん 副会長：金滝さん・鹿島さん

もうちょっとみんなに話を聞いてほしい。決めたルールを守ってもらっているが、あまり効果がない。書記・会計が決まったので、これからです。

カルチャー教室での出来事

～陽光台公民館・料理教室～

すずらんの会には利用者がより充実した余暇を過ごすために、さまざまなサークル活動やカルチャー教室が毎月行われています。サークルではカラオケ、ボーリング、ティー・ボールサークルなど、そしてカルチャー教室では絵画、フラワーアレンジメント、料理教室などが地域の方々のご協力のもと活動しています。

もちろんサークル活動やカルチャー教室にお手伝い頂いている方々の中には知的に障害のある方たちと、今までまったく接したことのない方もいらっしゃいました。そこで今回は、利用者と接するにあたってどんな不安や戸惑いがあったのか、料理教室にお手伝い頂いている「わかな会」陽光台地区の先生方にお話を伺ってみました。

質問：「知的に障害のある方とこの料理教室を通じてはじめて接しられた方もいると思いますが、はじめに不安などはありましたか？」

先生：「正直、知的に障害のある方々に料理を教えるのには遠慮がありました。こんなことをさせていいのかなあ、という迷いがありました。遠慮があった頃はなんでもやってあげる、手伝ってあげるということがほとんどだったんですけど、今では『自分でできることは自分でしなさい』と言えるようになりました。」

利用者と毎回、料理を通して接していくうちに個々の利用者の性格や癖がわかってくるとともに、利用者の明るく素直な性格が、目に見えない隔たりを小さくしていったようです。このことは他のカルチャー教室やサークル活動にお手伝いいただいている方々も共通してお話しされていることでした。

また、毎回料理を作る際にはレシピを利用者に配っていますが、はじめは気を使って「ひらがな」を多くして利用者が読みやすいように工夫したりしましたが、最近徐々に漢字を増やしてみたところ読めるようになってきたと言うことでした。利用者もレシピに必ず目を通して逆に読み方や意味などを聞かれたりすることもあり、うまく説明できずに困惑したこと度々あったようです。そしてこのとき、やさしい言葉で書くことの難しさを痛感したのと同時に、どのようにすれば相手に自分の気持ちを伝えられるのか、理解してもらえるのかを考えるようになったということでした。

今では誰かが欠席するととても心配したり、また疲れたからといって椅子に座って料理をする人には少し注意したりと、まるで母親のような存在になっているようです。そして最後に次のような質問をしてみました。

質問：「現在、利用者と料理教室を行うにあたって戸惑うことや不安なことはありますか？」

すると次のような答えが笑い声とともに返ってきました。

先生：「料理教室の(場所の)予約が取れないことが一番の悩みなんですよ」と。

こんな方々です

第3者委員(苦情解決処理)

法人の施設やサービスを利用しているみなさんは、受けたサービスについて苦情を申し立てたり、自分の意見を提案することができます。法人に苦情を申し立てる際には、利用者の会を通じて法人と話し合う等、いくつかの方法があります。その中の一つの方法として第3者委員の方に相談をすることも出来ます。日頃付き合いのある職員にはちょっと苦情を言いにくい…などと、いうことも第3者委員の方には相談しやすいかもしません。第3者委員の方は公平な立場に立って、みんなの話を聞き、みんなの意見を法人に伝えてくれることが主な役割となります。そんな頼りになる第3者委員の方を紹介したいと思います。気軽に相談してみてはいかがですか…



人の話を聞く仕事をしてきた経験と
福祉に長く関わってきた経験を活か
し、みんなにとって話しやすい第3
者委員になれると思いますので、気
軽に相談してください。

これまで、地域の中で、
様々なボランティア活動
をしてきました。話しやす
い雰囲気を持っていること
がセールスポイントです。
皆さんの立場に立って、相
談にのりたいと思います。



これまで、様々な形で福祉とは関わってき
ました。皆さんのお手伝い
ができればと思っています。皆さんから相
談を受けた時には、じっくりと時間をかけ
て話を聞きたいと思ってます。

